

特別養護老人ホーム ふしの白寿苑

1 基本方針

- (1) 入居者の尊厳を守り、安心して楽しく生活できる環境とサービスの提供に努めます。
- (2) 職員の人材育成に努め、よりよいサービスが提供出来るよう努めます。
- (3) 共生社会の一翼を担う地域福祉の推進と、信頼される施設作りを目指します。

2 利用者の状況（令和6年3月31日現在）

(1) 入退所の状況

定 員		前年度末 利用者数	令和5年度中の入退所状況					利 用 延人員	年間平均 稼 働 率	年 度 末 利用者数
			入所	退所	退所理由別					
					施設 移管	契約解除 (入院等)	死亡			
70 人		70 人	22 人	23 人	1 人	3 人	19 人	24,175 人	94.36%	69 人
4 年度	70 人	70 人	26 人	26 人	0 人	5 人	21 人	24,093 人	94.30%	70 人

(2) 利用者の介護度別人員

性別	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
男 性	0人	0人	1人	14人	7人	22人
女 性	0人	0人	7人	23人	17人	47人
計	0人	0人	8人	37人	24人	69人

(平均介護度4.23)

3 事業の実施状況

(1) 全室個室ユニット型施設の特徴を活かした安定的経営

- ア 新型コロナウイルス感染症等の予防を徹底し安心して生活していただくよう努めるとともに毎月、「虐待の芽チェックシート」を活用し自らが支援を振り返ることで入居者の尊厳を守るよう努めた。
- イ 代表者会議で収入・支出などの経営状況を分析し経営意識を高め効率的運営に努めた。
- ウ 入居者の健康管理、事故リスクの低減及び空床期間の短縮に努めた。令和5年度の稼働率は、入所94.4%(目標96%)短期入所90.8%(目標90%)となりほぼ目標を達成した。
- エ 事業活動に必要な関係法令や諸規程の遵守し、健全な施設運営に努めた。

(2) チームや多職種連携による安全・安心な福祉サービスの提供

- ア 個室の環境を有効活用し、なじみのある物を持ち込み落ちついた空間で、自分のペースで生活できるよう努めた。
- イ 認知症等によりコミュニケーションが難しい入居者の方については、ユニットの職員間、各部署等で情報共有やケース会議を行い「その人」に寄り添ったケアに努めた。
- ウ 本人・家族のニーズを基に多職種間で連携し、三カ月毎のモニタリング、プランの作成と実施、評価と見直しを定期的に行った。
- エ 適切な食事形態の提供、歯科医師及び歯科衛生士による口腔ケア、機能訓練指導員による姿勢の調整などにより誤嚥性肺炎の予防に努めた。また、生活リハビリやレクリエーションを実施し重度化予防と機能維持に努めた。
- オ 喀痰吸引等実地研修、喀痰吸引・胃ろうによる経管栄養に関するフォローアップ研修を介護員を対象に実施し、安全に医療的ケアが提供できるよう努めた。
- カ 看取り期の方にはご本人とご家族に悔いが残らないよう宿泊を伴う付き添いをしていただいている。令和5年度は、16名の看取りを行った。
- キ 新型コロナウイルス感染症対策現地指導を受け、感染対策の見直しとユニットごとにゾーニング研修を行い感染防止に努めた。

(3) 組織力強化のための人材確保、人材育成、離職予防

ア 介護職員と調理員の退職や病気により欠員が長期間に亘り、年間を通じて人材確保が課題となった。

イ 研修内容を職種ごとにグループ分けするとともに、介護職員については新人、中堅、ベテラン、リーダーとそれぞれにあったオンライン研修の受講を実施した。

ウ キャリアパス対応型生涯研修中堅コース1名、認知症介護実践者研修2名、認知症リーダー研修1名、ユニットリーダー研修2名が受講した。また、介護支援専門員・介護福祉士等の資格取得に係る情報提供を行った。

(4) コロナ禍での家族交流と地域福祉の推進

ア 家族との交流(面会)は、居室・面会ブース・WEBなど感染情報をもとに臨機応変に対応するとともに、手紙により近況報告に努めた。

イ 居宅介護支援事業は、住み慣れた地域で安心して暮らしていただけるよう地域ケア会議等を通じ多職種で協議を行い支援に努めた。地域の方や担当外の方からでも相談があれば情報提供しながらその都度支援した。

ウ 短期入所事業は、居宅介護支援事業所と連携し在宅生活の支援に努めた。

エ 地域との交流とボランティアの活用と育成については、感染拡大を懸念するため実績が少なく課題となった。

(5) 働きやすい職場環境作りと安全衛生の充実

ア 簡易リフト、スライディングボード等の福祉用具や機器を活用し介護の負担軽減に努めた。また、眠りスキャン等のICT機器も令和6年5月頃には設置することとなった。

イ 子育て支援のため勤務時間に配慮し働きやすい職場作りに努めた。

ウ ハラスメントアンケート、ストレスチェックを行うとともに外部のハラスメント等相談窓口を利用しメンタルヘルス対策と職員が相談しやすい環境作りに努めた。

エ 施設長が全職員を対象に面談を行い、働きやすい職場づくりに努めた。

4 実習、ボランティアの受入状況

(1) 実習の受入実績

実習受入先	受入期間	実人員	延人員
鳥取社会福祉専門学校	6月～9月	4人	62人
計		4人	62人

(2) ボランティアの受入実績

鳥取湖陵高校生(手作りクッション等のプレゼント)、美萩野老人クラブ(除草作業)、ルーテル教会(寄せ書き、ハーバリウム寄贈)、ウクレレ演奏(ウクレレ演奏と歌)

(3) 講師派遣

鳥取湖陵高校生活環境科にて高齢者施設の生活についての出前授業を実施した。(2月2名)

5 付帯事業

(1) 短期入所事業 定員 併設10名及び空床型

年度	実人員	延人員
令和5年度	71人	3,324人
令和4年度	68人	3,102人

(平均稼働率90.82%)

(2) 居宅介護支援事業

年度	実人員	延人員
令和5年度	40人	286人
令和4年度	37人	276人

